

イノシシ対策マニュアル

～イノシシに負けない集落づくり～



氷見市

目次

1. 被害対策の基本
2. 生態と特徴
3. 生息環境管理
4. 被害防除
5. 捕獲
6. 集落ぐるみによる取組

1. 被害対策の基本

近年、氷見市では、イノシシによる農作物被害・土木被害が増加しています。イノシシに対する正しい知識を持ち、早急に対策を講じることが大切です。これから紹介する対策は、イノシシのみならず他の野生鳥獣にも効果があります。

①相手を知ろう

野生鳥獣には各々一般的なイメージがありますが、間違ったものもあります。まずは相手を知って、適切な対策を講じましょう。

②動物が出没しにくい環境づくり

耕作放棄地や草むらなどがあると野生鳥獣は安心して農地に近づくことができます。逆に見通しのよいところでは、身の危険を感じて近づきにくくなります。野生鳥獣の隠れ場所となっている耕作放棄地や草むらなどのヤブを取り除き、野生鳥獣の出没しにくい環境づくりをしましょう。

③集落を動物の餌場にしない

放任果樹や収穫残渣の撤去をしましょう。撤去しないと野生鳥獣の餌場となります。また、二番穂がイノシシの餌となる場合があるため、秋起こしなどをしましょう。

④他人任せにしない

ハンターや役所に任せきりにしてしまうと、いつの間にか被害の当事者であるという意識がなくなってしまうケースがあります。「自分の農地は自分で守る」という意識がなければ被害は減少しません。

⑤集落ぐるみで取り組む

個人の取り組みも大事ですが、バラバラよりも集落で取り組んだ方が効果的です。ひとりでできないことも、集落ぐるみならできることがあります。

⑥諦めないで相談を

「対策を講じたけれど失敗した」といって対策をやめてしまうケースがあります。失敗した原因について県や市に相談しましょう。

2. 生態と特徴

イノシシのみならず、野生鳥獣の生態について誤った情報がたくさん溢れています。誤った情報では、誤った対策しかできません。被害を防止するためには、まず相手のことを正確に知ることが大切です。

生態

季節によって変わる！

食性

植物を主とした雑食性で人間が栽培した農作物なども食べます。
イモ類、タケノコ、稲穂、塊根、昆虫、ミミズ、ヘビ等

行動、身体能力

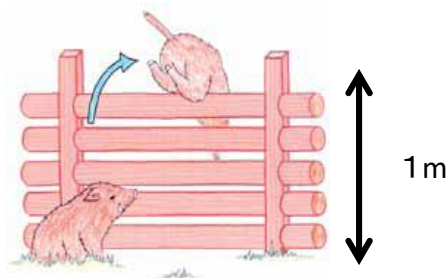
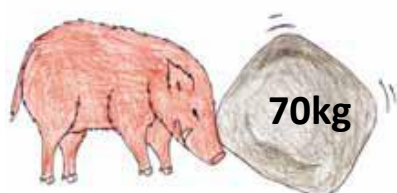
- ・数km圏内を動き回ります。
- ・助走なしで1mの高さを飛び越える跳躍力を持ちます。
- ・下から20cmのすき間があればくぐり抜けようとします。
- ・犬並みの非常に鋭い嗅覚を持ちます。
- ・海や湖を泳ぐことができます。(約30kmを泳ぐとも言われています。)
- ・♂で70kg、♀で50～60kgの重さのものを動かすことができます。
- ・鼻を使って土を掘ったり、障害物などを動かします。

繁殖

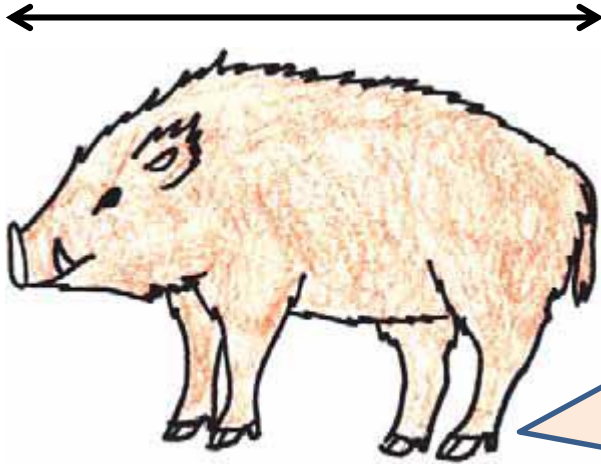
- ・年1回出産します。冬に交尾期を迎え、春に出産します。
- ・春に出産した子供が捕獲されたり死亡した場合は、秋にもう一度出産する場合があります。
- ・1回の出産で平均4～5頭の子供を産みます。
- ・野生での寿命は10年前後とされています。

特性

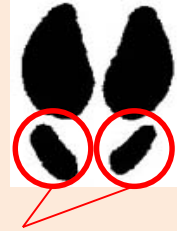
- ・時速40kmの速さで走ることができます。
- ・オスは単独行動、メスは子供や姉妹など群れで行動します。
- ・学習能力が非常に高いといわれています。
- ・警戒心が強く、なかなか人前に姿を見せません。慣れると大胆不敵な行動をとります。
- ・体毛は剛毛であり、有刺鉄線などに触れても痛みを感じません。
- ・オスは牙を持っており、牙で攻撃します。メスは牙が短いため噛みつく場合があります。
- ・寄生虫を落としたり、体温調節をするため、泥浴び(「のたうち回る」の語源)をします。



おとなで、体長約100cm～140cm 体重約60kg～100kg



痕跡



副蹄がある。
柔らかい土でないと
付かない場合が多い。

イノシシによる被害・痕跡

【水稲倒伏被害】



【農地法面の掘り起こし被害】



【けもの道】



【又タ場】



3. 生息環境管理

イノシシの被害対策の第一歩となるのが、イノシシを近づけさせない集落環境をつくることです。まず、「行きたい・近づきたい」と思わせる要因を1つでも除いて、イノシシを引き付けない集落にしましょう。取り組みが早ければ早いほど、そして地域のみみんなで取り組むほど効果が高く、併せて、既設の防護柵の効果をも高めることもできます。

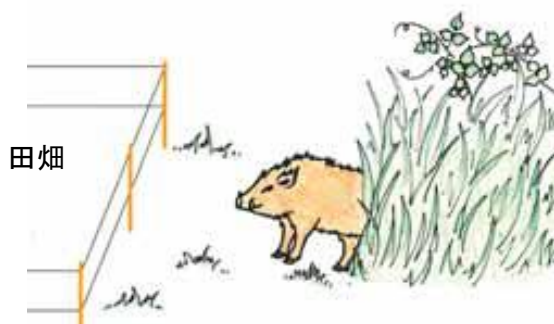
餌付けになることをしない

- ・生ゴミや野菜くずを田畑や山際に捨てないでください。
- ・収穫の終わった野菜や果樹等の取り残しを畑に残さないでください。
- ・収穫しない果樹や竹林を放置しないでください。
- ・2番穂(ひこばえ)が食べられないように、稲刈りの終わった田は秋起こしをしてください。
- ・お墓のお供えものは持ち帰ってください。

田畑に近づかせない

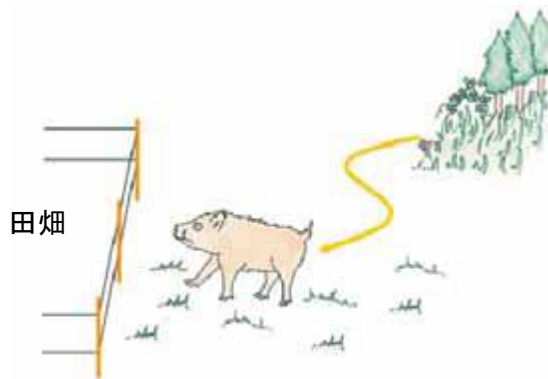
- ・休耕地や耕作放棄地は恰好の寝床やヌタ場、さらに田畑への侵入口になるので、草刈りなど適正な管理を行ってください。和牛などを放牧し、山と田畑の間に人と野生鳥獣との緩衝地帯を設け、近づかせにくくする方法も取り組まれています。
- ・山際の草木の伐採や枝払いをして見通しを良くし、近づきにくい環境をつくるのが大切です。
- ・田畑をエサ場だと覚えさせないためにも、生育期や収穫期だけでなく、年中追いつめてください。
- ・田畑に近づかせないために、里山再生整備事業や中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金、氷見市鳥獣被害防止総合対策事業(生息環境管理)補助金を活用し、周辺環境の整備をしましょう。

【近くにヤブがある場合】



隠れる場所が近いので安心♪

【ヤブを刈り払った場合】



隠れる場所が遠いので不安(～～)

4. 被害防除

イノシシの侵入を防止する資材には、電気柵など様々なものがあります。それぞれの資材の特徴を把握し、地形や積雪などの自然条件、適切な管理が可能な規模や労力を考慮し、現地にあわせて設置しましょう。また、個人で設置するよりも、隣近所に声をかけて、共同で設置するほうが効果的です。設置に対して補助を受けられる場合があるので、県や市などの関係機関に相談しましょう。

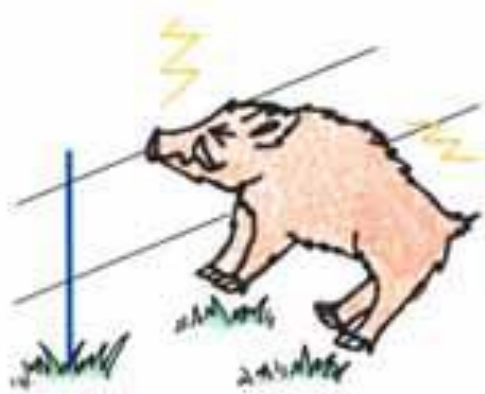
電気柵

電気のショックにより侵入を防ぐ柵で、慣れを生じさせないため、主に田畑の周辺に設置します。草刈りなどの管理が必要ですが、軽量で設置や収納が容易なため、積雪期の取り外しも簡単に行えます。ただし、電線やバッテリーは消耗品です。

電気柵設置の留意点

イノシシの目線で設置することが大切です！

- ①電線は2段張りです。上の線は地面から40cm、下の線は地面から20cmになるように張りましょう。高さがバラバラになるとイノシシはたやすく侵入してきます。
- ②ガイシ、フリップは外向きに付けましょう。
- ③排水口を防ぎましょう。電線を垂らしたり、ブロックで塞いでイノシシの侵入を防止します。
- ④電圧が4,000V以上流れているか確認しましょう。



【良い例】



【悪い例】

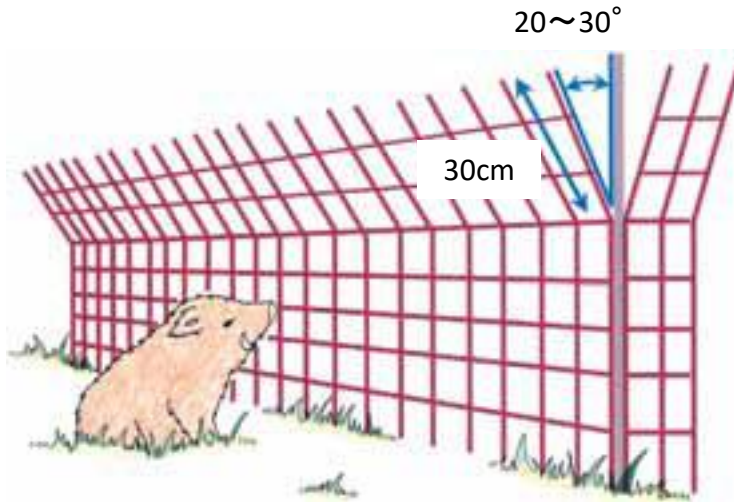


ワイヤーメッシュ柵

建築用の溶接金網を使った柵で、電気柵と比べて高価で、設置に労力はかかりますが、草刈りなどの管理にかかる手間は少なくなります。山裾や田畑のあるエリアを囲むように設置します。価格が高価で、設置に人足が必要なため、集落ぐるみで設置する必要があります。

ワイヤーメッシュ柵設置の留意点

- ・押し倒されないように、適当な間隔で丈夫な支柱を立ててください。
- ・上部30cmを20～30度折り曲げて使うと乗り越えにくくなり、効果的です。



氷見市有害鳥獣被害防止対策補助金

氷見市では、野生鳥獣による農作物被害を防止するため、電気柵やワイヤーメッシュ柵などの侵入防止柵の設置にかかる費用を助成しています。



詳しい補助内容については氷見市農林畜産課までお問い合わせください。

5. 捕獲

捕獲には、有害鳥獣捕獲と狩猟の2つの制度があり、被害者(農家)、市、実施隊が連携協力して実施することが重要です。

有害鳥獣捕獲

氷見市鳥獣被害対策実施隊が捕獲する

- ・有害鳥獣捕獲は、野生鳥獣により農作物が被害を受けたとき、県や市の許可を受けた鳥獣被害対策実施隊が捕獲する制度です。
- ・捕獲は市長から委嘱を受けた実施隊員が行いますが、日常的に行う檻の見回りや周辺的环境整備などは住民が協力し、地域ぐるみで取り組むことが大切です。

氷見市農業協同組合の従事者として捕獲する

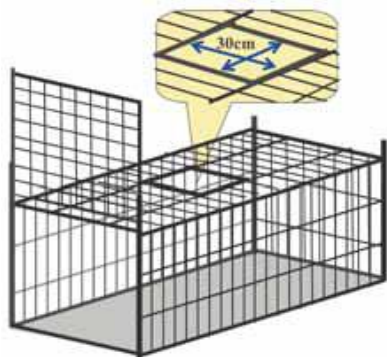
- ・わな猟免許を所有している一定の要件を満たした農業者に対して、従事者証を交付し捕獲をする制度です。

必要な要件

- ① イノシシによる農作物被害を受けている集落の構成員で、わな猟免許を所持し前年度又は当年度にわな猟狩猟登録を受けている者
- ② 猟災害共済等に加入していること
- ③ 過去3年間に、鳥獣関係法令に違反したことがない者
- ④ 猟友会氷見支部に加入している者

狩猟

- ・野生鳥獣を狩猟により捕獲するには、狩猟免許を取得し、狩猟者登録が必要です。
- ・狩猟期間は毎年11月15日から翌年2月15日までです。(イノシシに限り、猟銃は11月15日から2月末日まで、わな捕獲は11月1日から翌年3月15日まで)
- ・県では、狩猟免許試験を年3回実施しているので、狩猟免許の取得を希望される方は、県自然保護課や県高岡農林振興センター、市に相談してください。
- ・イノシシ用の捕獲檻に誤ってツキノワグマが捕獲(錯誤捕獲)されることがあります。錯誤捕獲は違法なので、捕獲檻の天井には、クマが脱出できるよう最低一辺30cmの穴を設けてください。



6. 集落ぐるみによる取組

被害を減少させるには、集落ぐるみの取り組みが重要です。

①生息環境管理(近づかせない)、②被害防除(侵入させない)、③捕獲(個体数調整)を総合的に取り組みましょう。

三本柱の対策

- ・生息環境管理、被害防除対策、捕獲を総合的に実施することが大切です。
- ・対策を継続することで、イノシシが近寄りにくい集落となり、農作物被害を防ぐことができます。

集落ぐるみの重要性

- ・集落ぐるみで取り組むことで対策の効果は高まります。
- ・一人ではできない対策も、集落ぐるみならできることがあります。

体制づくり

- ・集落ぐるみの対策を実施するには、まず集落内の合意形成が必要です。
- ・集落内の合意形成ができれば、広域的対策や維持管理作業が容易になります。
- ・集落ごとにそれぞれ状況が異なるため、集落の状況に合わせて段階的に合意形成を行う必要があります。

個々の田畑を守る対策から



集落全体を守る対策へ



集落全体で話し合い、効率のよい対策を心がけること！

集落ぐるみによる対策事例①

- ・平成25年に初めてイノシシによる被害が発生
- ・集落で話し合い、侵入防止柵を設置することに決定



集落ぐるみで侵入防止柵を設置したことで被害の撲滅に成功！



【集落の外周に侵入防止柵を設置】

集落ぐるみによる対策事例②

- ・平成24年に初めてイノシシによる被害が発生
- ・対策がわからず県や市に相談
- ・集落環境点検や電気柵の設置講習会を開催
- ・集落で電気柵や捕獲檻を購入し対策を講じる



集落環境点検を実施し、効果的な対策を実践



【集落みんなで電気柵の設置】



【集落環境点検の実施】

お問い合わせ先
氷見市産業振興部農林畜産課
TEL.0766-30-7088 FAX.0766-74-1447